

14時30分解禁

平成29年9月 全国百貨店売上高概況

平成29年10月23日

I. 概況

1. 売上高総額	4,351億円余
2. 前年同月比	4.4% (店舗数調整後/2か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	80社 226店 (平成29年8月対比-1店)
4. 総店舗面積	5,723,898㎡ (前年同月比:-3.9%)
5. 総従業員数	71,519人 (前年同月比:-5.1%)
6. 3か月移動平均値	2-4月 -0.6%、3-5月 -0.1%、4-6月 0.7%、
(店舗数調整後)	5-7月 -0.1%、6-8月 0.5%、7-9月 1.4%

【参考】平成28年9月の売上高増減率は-5.0% (店舗数調整後)

【特徴】

9月の売上高は4.4%増と2か月連続でプラスし、中期トレンドを示す3か月移動平均値も1.4%増と2期連続で上昇。また今年1～9月累計も0.2%増とプラスに転じた。

気温低下で季節需要が盛り上がり、秋冬物を中心に衣料品(2.4%増/23か月ぶりプラス)が好調に推移した他、一段の円安株高を背景に富裕層やインバウンドの消費意欲が昂進して、高額商材が活発に動いたことなどプラス要素が重なり、増勢を強める結果となった。

顧客別では、インバウンドが232億円(シェア5.3%/86.4%増)と過去最高の売上高を記録した他、客数(53.4%増)・単価(21.6%増)も高伸した。更に国内顧客(シェア94.7%)が前年実績をクリア(1.9%増)したことで、市場動向は国内外共にプラス基調を回復した。

地区別では、大都市が高額消費の活況を背景に名古屋(13.8%増)・大阪(13.9%増)をはじめ8都市で前年実績を上回り、合計6.8%増と大きく伸びた。半面、地方(0.8%減)は減少幅を縮め前年並みまで戻してきたものの、僅かにマイナスし5か月連続減となった。

商品別では、主要5品目の内、プラス回復した衣料品の他、引き続き化粧品(28.5%増)と高額商材(美術・宝飾・貴金属:11.1%増)が好調な雑貨が、合計16.4%増と10か月連続で前年をクリア。ラグジュアリーブランドを含む身のまわり品も2か月連続のプラスとなった。一方、引き続き不漁不作の影響で動きの鈍い生鮮食品(2.3%減)が押下げる形で、食料品(0.6%減)が僅かに前年を下回った他、最寄品(日用雑貨等)需要の低価格志向などから家庭用品も3.1%減と振るわなかった。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「9月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
 ◇北日本と東日本日本海側では高気圧に覆われやすく、日照時間はかなり多かったが、西日本では前線や湿った空気の影響を受けやすかったため日照時間が少なく、平均気温も低かった。中旬には台風第18号と前線の影響により北・西日本と沖縄・奄美を中心に大雨となり、河川の氾濫や浸水、土砂災害などの被害が発生した。
- (2) 営業日数増減 29.8日(前年同月比 -0.1日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(" ±0日)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数131店舗)
 ①増加した:38店、②変化なし:36店、③減少した:57店
- (5) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数91店舗)
 ①増加した:13店、②変化なし:67店、③減少した:11店

全国百貨店 売上高速報 2017年09月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	435,161,998	100.0	4.4 (2.8)
10都市	306,439,934	70.4	6.8 (6.6)
札幌	11,996,417	2.8	3.7
仙台	5,480,252	1.3	3.8 (-4.0)
東京	118,529,686	27.2	4.6
横浜	25,624,782	5.9	4.0
名古屋	30,330,537	7.0	13.8
京都	18,172,219	4.2	7.3
大阪	61,104,503	14.0	13.9
神戸	10,693,263	2.5	-1.8
広島	9,631,944	2.2	-2.7
福岡	14,876,331	3.4	5.8
10都市以外の地区	128,722,064	29.6	-0.8 (-5.3)
北海道	1,369,563	0.3	-6.2 (-59.5)
東北	6,387,525	1.5	-3.7
関東	59,315,560	13.6	1.3 (-5.6)
中部	9,779,786	2.2	-1.8
近畿	16,126,871	3.7	-8.2
中国	9,680,029	2.2	1.5
四国	6,594,472	1.5	1.6
九州	19,468,258	4.5	-0.6

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	435,161,998	100.0	4.4 (2.8)
紳士服・洋品	25,864,971	5.9	7.3 (5.2)
婦人服・洋品	89,616,590	20.6	1.5 (-0.3)
子供服・洋品	9,280,113	2.1	3.1 (1.5)
その他衣料品	9,683,725	2.2	-2.4 (-4.5)
衣 料 品	134,445,399	30.9	2.4 (0.5)
身のまわり品	59,253,591	13.6	4.4 (2.2)
化粧品	44,283,616	10.2	28.5 (27.2)
美術・宝飾・貴金属	27,737,961	6.4	11.1 (8.9)
その他雑貨	16,224,647	3.7	-1.0 (-2.3)
雑 貨	88,246,224	20.3	16.4 (14.8)
家 具	4,812,843	1.1	1.1 (-0.5)
家 電	1,033,467	0.2	-12.2 (-12.2)
その他家庭用品	13,169,409	3.0	-3.8 (-5.2)
家 庭 用 品	19,015,719	4.4	-3.1 (-4.5)
生 鮮 食 品	21,860,183	5.0	-2.3 (-3.6)
菓 子	27,032,059	6.2	-0.4 (-1.6)
惣 菜	26,102,378	6.0	0.6 (-0.1)
その他食料品	31,830,529	7.3	-0.5 (-2.1)
食 料 品	106,825,149	24.5	-0.6 (-1.8)
食 堂 喫 茶	12,243,989	2.8	-1.8 (-3.0)
サ ー ビ ス	4,737,849	1.1	1.2 (-1.9)
そ の 他	10,394,078	2.4	21.0 (20.3)
商 品 券	7,962,764	1.8	-6.5 (-7.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

II. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 6.8% (店舗数調整後／2か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.8% (店舗数調整後／5か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	6.8	4.7	2か月連続プラス
札幌	3.7	0.1	9か月連続プラス
仙台	3.8	0.0	4か月連続プラス
東京	4.6	1.2	2か月連続プラス
横浜	4.0	0.2	2か月連続プラス
名古屋	13.8	0.9	3か月ぶりプラス
京都	7.3	0.3	3か月ぶりプラス
大阪	13.9	1.8	9か月連続プラス
神戸	-1.8	0.0	2か月ぶりマイナス
広島	-2.7	-0.1	12か月連続マイナス
福岡	5.8	0.2	2か月連続プラス
10都市以外の地区	-0.8	-0.3	5か月連続マイナス
北海道	-6.2	0.0	12か月連続マイナス*
東北	-3.7	-0.1	2か月ぶりマイナス*
関東	1.3	0.2	2か月連続プラス
中部	-1.8	0.0	4か月連続マイナス
近畿	-8.2	-0.3	7か月連続マイナス
中国	1.5	0.0	5か月ぶりプラス*
四国	1.6	0.0	5か月ぶりプラス
九州	-0.6	0.0	4か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が10か月連続、身のまわり品が2か月連続、衣料品が23か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が21か月連続、食料品が4か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が30か月連続、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、惣菜が2か月連続、家具が2か月ぶり、婦人服・洋品が23か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	4.4	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	7.3	0.4	2か月連続プラス
婦人服・洋品	1.5	0.3	23か月ぶりプラス
子供服・洋品	3.1	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	-2.4	-0.1	23か月連続マイナス
衣料品	2.4	0.8	23か月ぶりプラス
身のまわり品	4.4	0.6	2か月連続プラス
化粧品	28.5	2.4	30か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	11.1	0.7	6か月連続プラス*
その他雑貨	-1.0	0.0	5か月連続マイナス*
雑貨	16.4	3.0	10か月連続プラス
家具	1.1	0.0	2か月ぶりプラス
家電	-12.2	0.0	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.8	-0.1	18か月連続マイナス
家庭用品	-3.1	-0.1	21か月連続マイナス
生鮮食品	-2.3	-0.1	42か月連続マイナス*
菓子	-0.4	0.0	2か月ぶりマイナス*
惣菜	0.6	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	-0.5	0.0	2か月ぶりマイナス*
食料品	-0.6	-0.2	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.8	-0.1	5か月連続マイナス
サービス	1.2	0.0	3か月ぶりプラス
その他	21.0	0.4	5か月連続プラス
商品券	-6.5	-0.1	79か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成29年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年10月23日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 185億円余
2. 前年同月比	4.6% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭6.4%(91.3%) : 非店頭-11.4%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	843,650㎡ (前年同月比:-4.4%)
6. 総従業員数	18,165人 (前年同月比:-4.1%)
7. 3か月移動平均値	2-4月 -1.3%、3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%、 5-7月 -0.3%、6-8月 1.0%、7-9月 2.1%

[参考] 平成28年9月の売上高増減率は-3.4%

【特 徴】

- (1) 東京地区売上は4.6%増と2か月連続で前年を確保した。休日が分散した暦の関係から、入店客数は0.7%増と売上の伸びに比べ低調で、デイリー商材の食料品等に一部影響があった。半面、景気情勢を反映した消費マインドの好転を背景に、高額商材の活況や複数売場の買い回りが促進され、客単価は向上した。
- (2) 主力の衣料品(1.2%増)は東京地区でも前年をクリアしたが、この要因には、気温低下の天候与件に加えて、顧客ニーズに合わせた新規ブランドの積極導入、比較購買のし易さや各店の独自性を加味した自主編集売場の展開などがあげられる。具体的なアイテムとしては、紳士服・洋品(3.9%増)では、スーツ、ジャケット等のビジネス関連、婦人服・洋品(0.4%減)では、ブラウス、スカート、ストール、ブルゾンなどが堅調に推移した。
- (3) 雑貨は前年から二割増(19.9%増)と高伸した。秋のコスメフェアなど販促施策が奏功して、インバウンドを除く国内需要も極めて好調な化粧品(30.9%増)、需要拡大が顕著な高級時計等の高額商材(美術・宝飾・貴金属:16.0%増)が牽引した。身のまわり品(4.0%増)も2か月連続のプラスとなったが、食料品(2.0%減)は、改装工事による面積減や人気催事の会期ずれ、不漁不作による生鮮食品の価格高騰などが影響し前年には届かなかった。
- (4) また、各社が積極展開した外商等の優良顧客向け催事、地方物産展や取引先企業と連携したコラボ企画など様々な施策はいずれも好評で、業績向上に貢献している。
- (5) 10月は、国慶節によるインバウンドの盛況も受け、中間段階の商況は2.6%増(10/17)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 7店、③減少した: 7店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 8店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	118,529,686	100.0	4.6
紳士服・洋品	8,756,074	7.4	3.9
婦人服・洋品	21,630,413	18.2	-0.4
子供服・洋品	2,190,673	1.8	3.2
その他衣料品	2,213,054	1.9	3.9
衣 料 品	34,790,214	29.4	1.2
身のまわり品	17,538,404	14.8	4.0
化粧品	13,787,706	11.6	30.9
美術・宝飾・貴金属	8,830,448	7.4	16.0
その他雑貨	5,157,213	4.4	2.8
雑 貨	27,775,367	23.4	19.9
家 具	1,598,194	1.3	9.3
家 電	718,475	0.6	15.5
その他家庭用品	3,517,390	3.0	-10.8
家 庭 用 品	5,834,059	4.9	-3.2
生 鮮 食 品	3,943,240	3.3	-6.1
菓 子	6,582,429	5.6	-2.2
惣 菜	5,967,984	5.0	-2.0
その他食料品	8,517,044	7.2	0.3
食 料 品	25,010,697	21.1	-2.0
食 堂 喫 茶	2,883,887	2.4	-3.8
サ ー ビ ス	1,946,630	1.6	4.0
そ の 他	2,750,428	2.3	9.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,813,820 千円	-3.7
従 業 員 数	18,165 人	-4.1
店 舗 面 積	843,650 m ²	-4.4

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が10か月連続、衣料品、身のまわり品が2か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が13か月連続、食料品が3か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が30か月連続、美術・宝飾・貴金属が5か月連続、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他食料品が2か月連続、家具、家電が2か月ぶり、その他衣料品、その他雑貨が5か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	4.6	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	3.9	0.3	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	3.2	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	3.9	0.1	5か月ぶりプラス
衣料品	1.2	0.3	2か月連続プラス
身のまわり品	4.0	0.6	2か月連続プラス
化粧品	30.9	2.9	30か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	16.0	1.1	5か月連続プラス*
その他雑貨	2.8	0.1	5か月ぶりプラス*
雑貨	19.9	4.1	10か月連続プラス
家具	9.3	0.1	2か月ぶりプラス
家電	15.5	0.1	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-10.8	-0.4	6か月連続マイナス
家庭用品	-3.2	-0.2	13か月連続マイナス
生鮮食品	-6.1	-0.2	19か月連続マイナス*
菓子	-2.2	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-2.0	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	0.3	0.0	2か月連続プラス*
食料品	-2.0	-0.4	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	4.0	0.1	3か月ぶりプラス
その他	9.3	0.2	2か月連続プラス
商品券	-3.7	-0.1	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>